

地震に備えて、何をすべきか

1.

1995年に発生した阪神・淡路大震災では6,400人を超える人々がなくなりました。右の図はその年の「警察白書」からの抜粋です。この数字からどんな事実が読み取れるでしょうか。

	死者数
家屋、家具類などの倒壊による 圧迫死と思われるもの	4,831(88%)
焼死体(火傷死体)及び その疑いのあるもの	550(10%)
その他	121(2%)
合計	

平成7年度版「警察白書」

では、そのような悲劇を回避するために、あなたはどのような対策を行えばいいと思いますか。ふたつ書いてください。

【解説】

阪神・淡路大震災では、1980年以前に建てられた建築物で、手入れされていない住宅や1階部分が駐車場になって壁が少ないなどバランスの悪い建物に被害が集中しました。簡単に言えば、旧耐震基準(1980年以前)で建てられた建物は要注意ということです。さらに、その建物がもともと河川の後背湿地であったところとか、池や沼、入り江であったところ、いい加減な造成地、つまり地盤の弱いところに建っていれば、地震で倒壊する可能性は高くなります。また、11年前の兵庫県南部地震で壊れなかった家でも、そのときの打撃によって耐震性能は落ちていると考えられます。

兵庫県では、100年から150年周期で発生するといわれている南海地震と1000年から2000年周期で発生する山崎断層地震が危ないといわれています。南海地震が最後に発生したのは1946年。一方、山崎断層地震は、868年に発生した

のが最後だといわれています。南海地震は今後30年 - 50年以内に80%以上の確率で発生するといわれており、山崎断層地震は、1000年後に発生するかもしれないし、明日発生するかもしれないのです。

右の地図は山崎断層での揺れの強さを表しています。一番色が濃いところが震度6以上の強い揺れが予想される地域で、加古川や市川、千種川といった河川とそれらが作ってきた平野部に強い揺れがあらわれることがわかると思います。震度は、何も震源から同心円状に分布しているわけではないのです。

そういった地震災害で生き延びるためには、問1で考えたように、地震で壊れない建物に住み、家具の下敷きにならないような工夫をすることが一番です。人生で一番長い時間を過ごすのは我が家なのですから。

ただ、家屋の耐震診断と耐震補強は、あなたひとりの力ではできません。今日、家に帰って親に相談してみてください。また、将来自分で家やマンションを買うとき、あるいは、大学で下宿するときは、価格や間取り、交通、日当たりなどの条件にもうひとつ、「地震に強い家」という条件を必ず忘れないでください。阪神・淡路大震災では、神戸、芦屋、西宮などの古い安下宿に住む学生が多く亡くなったということも付記しておきます。

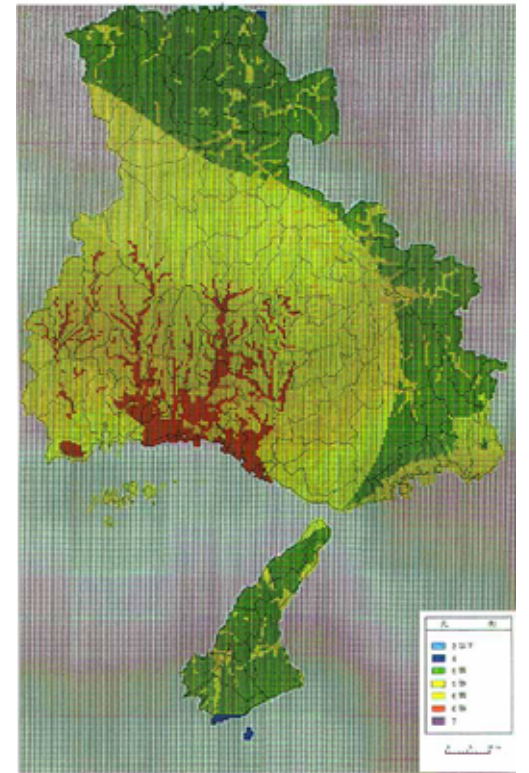


図 2.2.8 震度(山崎断層)
兵庫県ホームページより

2. 一生で一番長い時間を過ごすのは自分の家だと書きました。その自分の家の中でも一番長い時間を過ごすのが、寝室です。ですから、寝室で地震に遭う確率が一番高いのです。地震の犠牲にならないためには、自分の部屋の「強さ」を考えなければなりません(もちろん、それだけで大丈夫なわけではなく、街中や乗り物、学校などどこで地震に遭うかはわからないということは忘れないように)。

では、次の手順で自分の部屋の「強さ」を検討し、対策を立てていきましょう。

1. 別紙の方眼に自分の部屋を描く(見取り図でも鳥瞰図でも、イラストでも漫画でもかまいません)。
2. 自分の部屋の中で危険だと思われる箇所に赤で印をつける。
3. 絵の周囲のスペースに、危険である理由を記入する。
4. ここで解説を聞く。
5. もう一枚の別紙に、地震対策を施した自分の部屋を描く。周囲のスペースにはその工夫を書き込む。

* 時間の関係で、5はできないかもしれません。家で、ゆっくりと考えてください。